

きらめく

ふるさとへの想いを  
歌にのせて

びと

# かさい人 阪上和子 さん

声楽家



<プロフィール> 阪上和子 (さかうえ・かずこ) さん  
1957年生まれ。加西市和泉町出身。大阪音楽大学において声楽を学ばれ、現在は宝塚市在住。主婦業のかたわら地域に根ざした音楽活動を展開中。「わたしのふるさと」(加西市役所の電話の保留音)や、北条鉄道のイメージソング「歌う風」の作詞・作曲をされました。

阪上さんは、たくさんの曲を作ってもらっていますが、加西市役所の電話の保留音としても使われている「わたしのふるさと」を作られたきっかけは何ですか？

阪神大震災のときに、自宅が全壊してしまったんです。そのときは歌を歌うどころではありませんでしたが、家を建て直してほっとしたときに、ふと故郷の風景が思い浮かびました。あの頃はみんな自分のことで精一杯だったはずなのですが、そんな中でも、避難所で童謡を歌う姿が見受けられるなど、改めて歌の大切さを感じました。

北条鉄道イメージソング「歌う風」の歌詞の中に「スイカの音が聞こえる。」という部分がありますが…？

子どものころ、夏休みに母の実家へ遊びに行くと、納屋にスイカがたくさん転がっていました。そのスイカをたたいて音を聞いて甘いかどうか判断していたんです。そんな風に私の歌には、子どもの頃の経験がたくさん生きています。

子どもの頃の思い出で一番印象に残っていることは？

れんげ畑に友達と寝転んで青空を見ていたとか、クラブ活動の練習の後、みんなで夕日の中を歩いて帰ったこととかを思い出します。私にとって加西市というのは、風景が四季と一緒にある。四季の中に大切な人がいる。そんな感じの所ですね。

北条鉄道はどう思われますか？

昔は「旅行」に行くときは、常に北条鉄道からでした。だから北条鉄道といえば、「旅行」が思い浮かびます。すごく明るくて楽しいイメージが残っています。

今はお年寄りもお元気です。来年になると、団塊の世代の問題などもあるし、都会に住むその世代の人に訴えかければ、きっと(北条鉄道に)興味を持たれると思います。北条鉄道に外部から人を呼ぶようにすれば、いい方向に持っていけるのではないのでしょうか。沿線の風景は本当に素晴らしいです。あの風景を見れば行ってみたい、と思いますもの。だから北条鉄道も、元気を出して頑張ってください。

子どものころから歌が好きで、小さい頃はピアノの先生になりたかったという阪上さん。阪上さんが作る歌からは、「大人になると忘れがちな事を思い出させてくれる。」そんな力を感じます。



鉄道まちづくり会議で中川市長より感謝状が贈呈されました。

北条鉄道イメージソング「歌う風」

一、なつかしい線路に乗って 歌う風になろう  
夢の生まれる町へと続く風になろう  
夢行きの切符買って 花降る丘に行けば  
菜の花を小籠に摘んで あなたは待っている  
広い大地の真中 夢が生まれてゆく  
もうすぐあなたに会える 歌う風になろう

二、なつかしい線路に乗って 歌う風になろう  
夢の生まれる町へと続く風になろう  
「聴こえるかいスイカの音」ポーンとたたいて見せた  
麦わら帽 大きく振って あなたは待っている  
広い大地の真中 夢がはずんでゆく  
もうすぐあなたに会える 歌う風になろう

三、なつかしい線路に乗って 歌う風になろう  
夢の生まれる町へと続く風になろう  
明るい駅のホームは 風が歌う舞台  
コスモスの花束抱いて あなたは待っている  
広い大地の真中 夢が広がってゆく  
もうすぐあなたに会える 歌う風になろう

四、なつかしい線路に乗って 歌う風になろう  
夢の生まれる町へと続く風になろう  
梅の香り運ぶ風よ やさしい心伝えて  
風の中 耳を澄ませて あなたは待っている  
広い大地の真中 夢が近づいてゆく  
もうすぐあなたに会える 歌う風になろう

ラララララララ ランラン・・・  
北条鉄道に乗って 歌う風になろう  
ララララ ランラン